
短編小説 カーテン

くりこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編小説 カーテン

【Nコード】

N3149V

【作者名】

くりこ

【あらすじ】

『カーテン』を題材にしたショート作品です。ほのぼののしていただけたら嬉しいです。

他サイトにて投稿済み作品です。

相模灘が望める丘に。ささやかだが家を建てた。

開け放った大窓。明るいいリビングへ、潮風がそよぐ。静かな小春日和。私は母と一緒にハーブティーを飲みながら、オーダーメイド・カーテンのカタログをめくっている。

『新築祝いにカーテンを買ってあげるわよ』と言い出したのは、母だ。

リビングには落ち着いたゴブラン織りのカーテンを。

将来、子供部屋にと予定してる洋間には、アイボリーに風船がプリントされたポップな色調のものを選んだが、多分客間へ変更になりそうだ。

私達夫婦のベッドルームには。濃いピンク地に、花柄のものが良いと母が指差す。

「新婚さんなんだもの。雰囲気が出て良いわよ」と勧めるが、私は苦笑した。

「晩婚カップルなのよ？ ゆっくり休めるような、シックで飽きの来ない柄がいいわよ」

「そうかしらねえ。コレじゃあでも、なんだか地味じゃない？ トムだって、普段着は割りと派手な服装だし……」

外国人との結婚を大反対していた母と。こんな穏やかな昼下がり、共に過ごせる日がまた来ようとは夢にも思わなかった。

母のマグカップへ温かなおかわりを注ぐ。夫トムの母親から習ったマフィンを勧めつつ、私は話を切り出した。

「母さん。八畳間の和室のカーテンはどうする？ 障子は貼り替えが手間だから入れなかったの。大窓と出窓のカーテンは、母さんが決めてね。寒がりだから厚みのある生地がいいよ。夜勤明けの時でも寝れるように遮光タイプで……」

キョトンとしてる母へ、私は笑った。

「……トムがね。母さんをここへ呼びたいって。一緒にママと住みましょうって、彼が言ってくれたからさ……」

「え……」

古びたアパートへ、母一人で住まわすのは忍びないと言い出したのは夫だ。

ここからなら、看護師の母は仕事も通える。

父亡き後。母一人で子一人を懸命に育ててくれた。

ようやく親孝行が出来そうに思えた。私はカタログをスーッと差し出す。

「私達と同居してね、母さん。これからは私が母さんの面倒見るから……」

目頭を母がぬぐう。しわが増えた目尻を指で押さえながら、母が笑った。

「ありがとう。まだまだ現役で頑張るけれどね。でも……トムがそう言ってくれるなら、まあ考えてやっても良いよ」

じゃあ、和室はこのピンクのカーテンにするよ！ と、母が言う。

私達は声をあげて笑った。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3149v/>

短編小説 カーテン

2011年10月8日19時13分発行